

文化庁助成

日本音楽集団

第21回定期演奏会（第2回関西定期）



— 曲 目 と 演 奏 者 —

一、ね・とり〈開幕のためのセレモニー〉

〔能管〕望月太八 〔尺八〕宮田耕八朗・坂田誠山 〔三絃〕杉浦弘和・坂井とし子
〔琵琶〕半田綾子 〔二十絃箏〕野坂恵子 〔十三絃箏〕白根きぬ子
〔十七絃箏〕宮本幸子
〔打楽器〕尾崎太一・堅田啓輝
〔指揮〕田村拓男

二、ダンス・コンセルタント（初演）

三木 稔

(1) 踊る春 (2) 水巡る (3) 秋、そして (4) 風の花

〔篠笛〕望月太八 〔尺八〕宮田耕八朗・坂田誠山 〔三絃〕杉浦弘和
〔琵琶〕半田綾子 〔箏〕野坂恵子・坂井とし子 〔十七絃箏〕宮本幸子
〔打楽器〕尾崎太一・堅田啓輝
〔指揮〕田村拓男

三、三絃協奏曲

長沢 勝俊

〔三絃独奏〕杉浦弘和
〔笛〕望月太八 〔尺八〕宮田耕八朗・坂田誠山 〔琵琶〕半田綾子
〔箏〕白根きぬ子・野坂恵子 〔十七絃箏〕宮本幸子
〔打楽器〕尾崎太一・堅田啓輝
〔指揮〕田村拓男

— 休 憩 —

四、尺八二重奏曲（初演）

佐藤 敏直

〔尺八〕宮田耕八朗・坂田誠山

五、古代舞曲によるパラフレーズ

三木 稔

(1) 前奏曲 (2) 相聞 (3) 田舞 (4) 諫歌 (5) 耀歌

〔篠笛・能管〕望月太八 〔尺八〕宮田耕八朗・坂田誠山 〔三絃〕杉浦弘和
〔琵琶〕半田綾子 〔箏〕白根きぬ子・野坂恵子 〔十七絃〕宮本幸子
〔打楽器〕堅田啓輝・清水義矩
〔ソプラノ〕増田睦実
〔指揮〕田村拓男

日本音楽集団関西公演に期待して

平野 健次（獨協大学教授・東京芸大講師・相愛女子大講師）

関西における現代邦楽への関心も、ここ数年で急激に高まりつつある。そもそも、大阪という土地柄は、一見東京より保守的なように見えて、良いということになったら、その実行に関しては非常に進歩的である面を持っている。明治における明治維新の例がその一例である。しかし、一面において、古き良きものへの執着も強い。三味線組歌の伝承などその好例である。もう一つ、一応実験に対して寛容ではある。しかし、その結果の反省を失なうと、二度目からは冷酷である。日本音楽集団も二度目の関西における公演ではあるが、恐らく一昨年の場合とは、聴衆の耳も関心も異なっているはずである。今回の成否は、単に日本音楽集団の評価という問題を越えて、関西における現代邦楽の定着を左右し、それが現代邦楽そのものの評価となるかもしれない。その意味でこの公演に期待するところは大きい。

鮮烈な音の印象！

垣田 昭（NHKチーフディレクター）

日本音楽集団が先年度に第1回の演奏会を関西の地で持った時、私はその鮮烈な音の印象を今もなおはっきりと思い出します。今でこそ、いわゆる現代音楽と日本音楽の連繋は普通のこととなりましたが、かつて日本音楽集団がその活動を開始した時、人々はその伝統音楽の語法が、長沢勝俊氏、三木稔氏をリーダーとする魔術師たちによって見事に現代音楽のロジックに組み込まれているのを見て、驚嘆するばかりでした。この集団の先進的な活動が今日の日本の作曲界に伝統回帰への大きい呼び水となったことは誰しも否定出来ないところです。

さて今夕の、待望の関西第2回公演が開かれますが、それが大阪への波及的効果の大なることを願ってやみません。



音楽は様式の違いを越えて

日本音楽集団

私たちは、音楽の世界においても、愛や平和を基本としたいと思います。日本の楽器がさまざまな歴史を背負って、様式というより、むしろしがらみを越えられないものとする考え方を悲しみます。

私たちの前に、邦楽とか洋楽があり、技術や心情においては、それぞれの美点を継承しなければなりません。だが、人間や音楽の観点では、意識の垣根をとりはらい、私たちの後には、もはや邦楽も洋楽もない世界や世代の到来を願うという自明のことを、特にこの大阪での定期公演で希みつつ、全力を挙げた演奏を行うつもりです。

1973年12月 6日(木)

P.M. 7:00

大阪厚生年金会館中ホール

主催 日本音楽集団

